

伝え合う力を高める学習指導の追求 ～論理的な表現力と情緒的な表現力～

石 田 明 美
国語科 端 名 秀 雄
清 水 絵里奈

1. テーマ設定にあたって

本校国語科では、平成十四年度から「伝え合う力を高める学習指導の追求」をテーマとして、研究・実践を行っている。

今年度の本校研究の副題「コミュニケーション力を高める実践研究」は国語科にとっては、まさに「伝え合う力を高める」研究・実践であると理解し、平成十八年度も上記のテーマを継続することとした。

サブテーマに関しては、これまでの「論理的な表現力」に「情緒的な表現力」を加えたものとした。

2. 今年度の研究・実践

『コミュニケーション力』とは、『他者理解の能力』と『自己表現の能力』である（本紀要P 5 参照）という認識のもとで、国語科では次のような論を参考にして、教科としての研究のあり方を模索した。

「聞くことは他者理解であり、話すことは自己表現である。聞くことを通して、私たちは、ひと（＝他者）と出会う。ひとと出会うことは、異質なものの存在を発見することであり、他者と関わって自己の存在を明確にすることである。ひとの話を正確に聞き、そこにひとの独自性と問題点とを見いだすとき、ひと（他者）との関係において自立する。（中略）自己表現としての話す行為は、たんなるおしゃべりではない（そのレベルにとどめてはならない）。ひとは、ひとにむかって自己を明示し、ひとと関わって、自己の存在を確かなものにしていく。話すとは、まさに、新しい関係をつくり出し、その関係の中で自立することだ。」（注1）

その結果、「他者理解の能力」を「聞く能力」、「自己表現の能力」を「話す能力」と置き換えて考えることにした。

コミュニケーションの手段という点、まず話し言葉（音声言語）が思い浮かぶ。しかし、手段としては書き言葉（文字言語）も存在する。生徒たちの現状を考えると、例えば携帯電話を活用したコミュニケーションとしては、電話本来の機能である話し言葉によるものよりも、むしろ文字言語を活用したメールのやり取りの方が頻繁に行われていたりもする。

そこで、上記の「聞く能力」に「読む能力」を、「話す能力」に「書く能力」を加えて、

「他者理解の能力」＝「聞く・読む能力」（理解力）

「自己表現の能力」＝「話す・書く能力」（表現力）

というように置き換えた。

国語科ではこれまで、主として「書き言葉」による「伝え合う力」の指導に力を入れてきた。しかし、「コミュニケーション力」ということを考えた場合には、その手段としての「話し言葉」と「書き言葉」にはかなりの違いがある。

「もちろん、読む・書くの言語行為も、その本質は、ひと（＝他者）との関係の形成と自己の確立とにある。しかし、読む・書くは、自己とむかいあう孤独な行為である。自分を見つめ、自分の中で自己を検証する。ひとは、ひとつの文章を、それを書いた人との直接的な（対面しあった）関係の絶たれたところで読む。すべては、その文章によって理解するしかない。書くことも同様、ひととの直接的な関係のないと

ころで、ことばの上に自分を表現する。ことばだけを頼りに、自己形成をはかるのである。」(注2)

このような視点も参考にしつつ、今年度は、これまでの「書き言葉」に加えて「話し言葉」も意識しながら、「伝え合う力を高め」ていくことにした。

『「他者理解の能力」がもつ二つの要素『正確な理解力』と『深い理解力』』(本紀要P5参照)という点について、再び国語科での指導内容に置き換えるとするならば、「正確な理解力」に相当するものが「論理的な理解力」であり、「深い理解力」に当たるものが「情緒力」による理解、すなわち「情緒的な理解力」ではないかと考えた。

さらに、表現と理解は表裏一体のものであるから、これは「自己表現の能力」(表現力)にもあてはまるものであるとも考えた。

いわゆる「論理的な表現力」が「正確な」表現力であり、「情緒力」による表現、すなわち「情緒的な表現力」が「深い」表現力につながるという考え方である。

これまでどちらかといえば、「書き言葉」における「論理的な表現力」を重視した学習指導を行ってきた。しかし、その中でも日本人にはたとえば比喩表現であるとか、擬態語・擬声語を用いた表現のようなどちらかという「情緒的な表現」の方が伝わりやすいのではないか、ということを実感する場面が何度かあった。

ベストセラーとなった藤原正彦の『国家の品格』の中に、次のような一節がある。

「次第に論理だけでは物事は片付かない、論理的に正しいということはさほどのことでもない、と考えるようになりました。数学者のはしくれである私が、論理の力を疑うようになったのです。そして、「情緒」とか「形」というものの意義を考えるようになりました。」(注3)

「情緒とは、論理以前のその人の総合力と言えます。その人がどういう親に育てられたか、どのような先生や友達に出会って来たか、どのような小説や詩歌を読んで涙を流したか、どのような恋愛、失恋、片想いを経験してきたか。どのような悲しい別れに出会ってきたか。こういう諸々のことがすべてあわさって、その人の情緒力を形成し、論理の出発点Aを選ばせているわけです。」(注4)

すなわち、「情緒」が「論理」を支えているという意見である。前述のように『「情緒的な表現」の方が伝わりやすいのではないか、ということを実感する場面』もよくあるので、今年度はまず生徒たちにとって、どのような表現が受け入れやすいのかを各学年で調査してみることにした。

まずは主観的な表現を提示し、それを客観的に表現するとどうなるかを考えさせた。(例 今日暑かった。→今日は汗をたくさんかいた。)

次に、それらを併記して、どの表現からその様子が一番感じ取れるかを尋ねた。(詳細は次ページ以降参照)

今年度はこれらの結果も参考にしつつ、「論理的」・「情緒的」両方の視点から「伝え合う力を高める学習指導」を積み重ねていきたいと考えている。

(注1) 田近洵一 (1996)『コミュニケーションを深める話しことばの授業』国土社 p.11

(注2) 田近洵一 (1996)『コミュニケーションを深める話しことばの授業』国土社 p.12

(注3) 藤原正彦 (2005)『国家の品格』新潮新書 p.4

(注4) 藤原正彦 (2005)『国家の品格』新潮新書 p.50

いろいろな表現のしかたを考えよう

年 組 番 []

☆日本語にはいろいろな表現のしかたがありますが、次の文を内容を変えずに、条件に従って書きかえてみましょう。(できるものは二通り)

(例)・今日は暑かった。(「暑い」を使わずに) → ・今日は汗をたくさんかいた。

1. 今日は寒かった。(「寒い」を使わずに)

→

→

2. 外はまだ明るい。(「明るい」を使わずに)

→

→

3. 外はもう暗い。(「暗い」を使わずに)

→

→

4. このスープは甘い。(「甘い」を使わずに)

→

→

5. このスープは辛い。(「辛い」を使わずに)

→

→

6. 私はうれしい。(「うれしい」を使わずに)

→

→

7. 私は悲しい。(「悲しい」を使わずに)

→

→

8. このパンはかたい。(「かたい」を使わずに)

→

→

9. このパンは柔らかい。(「柔らかい」を使わずに)

→

→

10. 私は泣いた。(「泣く」を使わずに。)

→

→

11. 私は笑った。(「笑う」を使わずに)

→

→

12. 彼は走った。(「走る」を使わずに)

→

→

13. 彼は歩いた。(「歩く」を使わずに)
→
→
14. 彼は日記を書いた。(「書く」を使わずに)
→
→
15. 彼は音楽を聴いた。(「聴く」を使わずに)
→
→
16. 彼はゆっくり歩いた。(「ゆっくり」を使わずに)
→
→
17. 彼はそっと近づいた。(「そっと」を使わずに)
→
→
18. 星がきらきら輝く。(「きらきら」を使わずに)
→
→
19. 父はがみがみ怒った。(「がみがみ」を使わずに)
→
→
20. 芽がぐんぐん伸びる。(「ぐんぐん」を使わずに)
→
→
21. メロスは死んだように深く眠った。(たとえを使わずに)
→
→
22. メロスは、つり上げられてゆく友の両足にかじりついた。(たとえを使わずに)
→
→
23. メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。(たとえを使わずに)
→
→
24. 北海道を背骨のように南北に走る日高山脈 (たとえを使わずに)
→
→
25. 帽子を脱ぐと、日の暑さが頭を燃やした。(たとえを使わずに)
→
→
26. エジソンはすごい発明家だ。(「すごい」を使わずに)
→
→
27. 散髪したら、微妙な髪型になった。(「微妙な」を使わずに)
→
→

いろいろな表現から感じ取ろう

年 組 番 []

☆次の各番号の①～②・③の文は、それぞれほぼ同じ内容を表しています。その内容が一番感じ取れると思うものの番号に○を付けなさい。どれも同じと思うときは、③または④に○を付けなさい。

- | | |
|--|----------------|
| 1. ①今日は寒かった。
②今日は体が冷えた。 | 1 [① ② ③] |
| 2. ①外はもう暗い。
②外は日が暮れた。 | 2 [① ② ③] |
| 3. ①このスープは甘い。
②このスープは砂糖のようだ。 | 3 [① ② ③] |
| 4. ①このスープは辛い。
②このスープは唐辛子のようだ
③このスープはひりひりする。 | 4 [① ② ③ ④] |
| 5. ①私はうれしい。
②私は心が弾んでいる。 | 5 [① ② ③] |
| 6. ①私は悲しい。
②私は泣きたい気分だ。 | 6 [① ② ③] |
| 7. ①このパンはかたい。
②このパンは石のようだ
③このパンはかちかちだ。 | 7 [① ② ③ ④] |
| 8. ①このパンは柔らかい。
②このパンはスポンジのようだ。
③このパンはふわふわだ。 | 8 [① ② ③ ④] |
| 9. ①私は泣いた。
②私は涙を流した。
③私は目頭が熱くなった。 | 9 [① ② ③ ④] |
| 10. ①私は笑った。
②私は顔がほころんだ。
③私はにこにこした。 | 10 [① ② ③ ④] |
| 11. ①彼は音楽を聴いた。
②彼は音楽を耳にした。 | 11 [① ② ③] |
| 12. ①彼はそっと近づいた。
②彼は静かに近づいた。 | 12 [① ② ③] |
| 13. ①星がきらきら輝く。
②星が光を放って輝く。 | 13 [① ② ③] |
| 14. ①父はがみがみ怒った。
②父は口うるさく怒った。 | 14 [① ② ③] |
| 15. ①メロスは、つり上げられてゆく友の両足にかじりついた。
②メロスは、つり上げられてゆく友の両足にしがみついた。 | 15 [① ② ③] |

16. ①メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。

②メロスはつらく切ない思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。

16 [① ② ③]

17. ①帽子を脱ぐと、日の暑さが頭を燃やした。

②帽子を脱ぐと、日の暑さで頭が熱くなった。

17 [① ② ③]

18. ①エジソンはすごい発明家だ。

②エジソンはすばらしい発明家だ。

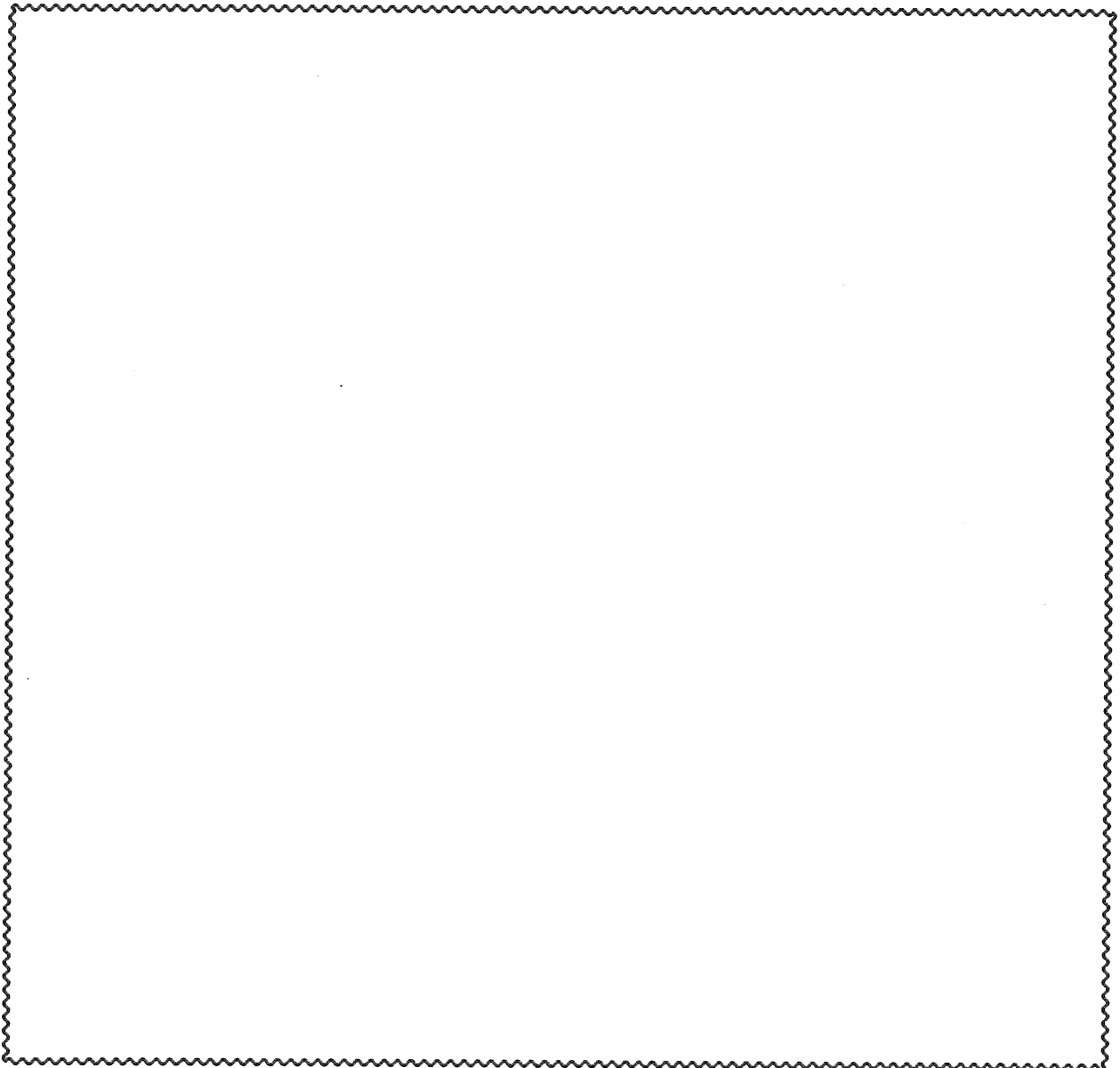
18 [① ② ③]

19. ①散髪したら、微妙な髪型になった。

②散髪したら、ちょっと変な髪型になった。

19 [① ② ③]

☆同じ事柄を表すのにも、いろいろな表現方法があることがわかったことと思います。では、あなたはどのような場合に、どのような表現方法を用いるとわかりやすく伝わるとおもいますか。あなたの考えを書きなさい。(上の例を用いてもよいです。)



いろいろな表現のしかたを考えよう

☆日本語にはいろいろな表現のしかたがありますが、次の文の内容を変えずに、条件に従って書きかえてみましょう。(できるものは二通り)

(例)・今日は暑かった。(「暑い」を使わずに)→今日は汗をたくさんかいた。

→今日は寒かった。(「寒い」を使わずに)→今日は体が冷たかった。

→今日はとりだしたが、たうような気温の低さだった。

→外はまだ明るい。(「明るい」を使わずに)→夕方はまだ大陽にさらされている。

→外はもう暗い。(「暗い」を使わずに)→夕方はもうやみの中にいれた。

→このスープは甘い。(「甘い」を使わずに)→このスープは舌がとろけるくらいだ。

→このスープは辛い。(「辛い」を使わずに)→このスープは火をふきそうだった。

→私はうれい。(「うれい」を使わずに)→私は天にのぼるような気分だった。

→私は悲しい。(「悲しい」を使わずに)→私は暗やみの中におとされたような気分だ。

→このパンはおいしい。(「おいしい」を使わずに)→このパンは歯がふれそうだった。

→このパンはかたい。(「かたい」を使わずに)→このパンは歯がふれそうだった。

→このパンは柔らかい。(「柔らかい」を使わずに)→このパンは歯がふれそうだった。

→私は泣いた。(「泣く」を使わずに)→私は涙の海にしまった。

→私は笑った。(「笑う」を使わずに)→私の顔がわがわがした。

→彼は走った。(「走る」を使わずに)→彼は風のように前にむかって進んだ。

→彼は歩いた。(「歩く」を使わずに)→彼はかたつむりのように進んだ。

14. 彼は日記を書いた。(「書く」を使わずに)→彼は日記に記録した。

→彼は音楽を聴いた。(「聴く」を使わずに)→彼は音楽をかいた。

→彼はゆっくり歩いた。(「ゆっくり」を使わずに)→彼はのんびり歩いた。

→彼はとんと近づいた。(「とんと」を使わずに)→彼はしずかに近づいた。

→星がきらきら輝く。(「きらきら」を使わずに)→星がまたたくまに輝く。

→父は彼女が怒った。(「がみがみ」を使わずに)→父は大きな声でうろたえた。

→芽がぐんぐん伸びる。(「ぐんぐん」を使わずに)→芽がすぐいさおいで伸びる。

→メロスは死んだように深く眠った。(「たえを使わずに)→メロスは体ひとつ重からず深く眠った。

→メロスは、つり上げられてゆく友の両足にたじろつた。(「たえを使わずに)→メロスは、友の両足にしがみついた。

→メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。(「たえを使わずに)→メロスはとてつらうな表現で、さく木まい〜見つめていた。

→北海道をまわく、南にたがる日高山脈

→帽子を脱ぐと、目の最さが顔を燃やした。(「たえを使わずに)→帽子を脱ぐと、日光で顔があつくはた。

→エジソンはすごい発明家だ。(「すごい」を使わずに)→エジソンはすばらしい発明家だ。

→散髪したら、微妙な髪型になった。(「微妙な」を使わずに)→散髪したら、いまいちつピンとこない髪型になった。

いろいろな表現から感じ取ろう 調査結果

いろいろな表現から感じ取ろう

1年生

	①		②		③		④	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1	42	34	32	33	4	12		
2	47	52	23	21	8	6		
3	46	44	23	33	9	2		
4	38	22	16	26	18	26	6	5
5	27	33	36	39	15	7		
6	38	21	28	44	12	14		
7	16	14	34	35	19	15	9	15
8	19	11	23	17	33	40	3	11
9	26	22	30	36	14	12	8	9
10	42	31	11	16	14	22	11	10
11	54	54	9	11	15	14		
12	35	47	23	18	20	14		
13	49	50	18	17	11	12		
14	27	31	28	31	23	17		
15	21	12	50	58	7	9		
16	39	37	26	30	13	11		
17	29	22	37	46	12	11		
18	13	8	46	47	19	24		
19	34	32	22	27	22	20		

いろいろな表現から感じ取ろう

2年生

	①		②		③		④	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1	54	49	16	21	9	7		
2	46	49	25	19	8	9		
3	65	59	10	16	4	2		
4	56	48	14	12	4	14	5	3
5	45	43	25	27	9	7		
6	42	30	27	32	10	15		
7	32	30	19	17	17	24	11	6
8	31	24	12	10	29	34	7	9
9	42	37	18	26	9	6	10	8
10	48	45	12	13	8	11	11	8
11	70	67	2	5	7	5		
12	46	50	19	11	14	16		
13	65	68	9	5	5	4		
14	31	36	36	21	12	20		
15	17	9	51	58	11	10		
16	32	32	37	27	10	18		
17	18	25	49	40	12	12		
18	13	9	41	42	25	26		
19	35	40	27	15	17	22		

いろいろな表現から感じ取ろう 調査結果

いろいろな表現から感じ取ろう

3年生

	①		②		③		④	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1	38	41	22	20	17	13		
2	38	42	31	22	8	10		
3	56	53	17	15	4	6		
4	50	33	14	12	11	23	2	6
5	35	25	35	41	7	8		
6	32	20	32	41	13	13		
7	23	13	21	27	24	26	9	8
8	21	13	22	12	29	45	5	4
9	23	23	32	25	15	17	6	9
10	41	35	23	20	7	6	6	13
11	60	67	9	0	8	7		
12	48	48	14	7	15	19		
13	58	57	15	6	4	11		
14	33	34	32	21	12	19		
15	17	18	47	50	13	6		
16	53	49	14	15	10	10		
17	32	26	34	34	11	14		
18	6	4	49	51	22	19		
19	40	43	26	14	11	17		

いろいろな表現から感じ取ろう（１～８の調査結果と考察）

石 田 明 美

1. ①今日は寒かった。

②今日は体が冷えた。

③どれも同じ。

各学年とも男女差はほとんど見られず、①の形容詞を用いたストレートな表現が55.6%を占めている。ただし、1年生だけみると、身体に感じる温度差をストレートに「寒い」と表現する①が48.4%、より具体的に「体が冷える」と表現する②が41.4%と②を選んだ割合が他の学年より高い。

1年女子生徒のコメントに『「今日は寒かった」は普通に寒いのだとあまり感じることはないが、『今日は体が冷えた』と聞くと、自分も冷えてきそうな感じがする。』というのがあったが、1年生はより自分が実感できる方を選んだ生徒が多いのではないかと思われる。

2. ①外はもう暗い。

②外は日が暮れた。

③どれも同じ。

各学年とも男女差は見られず、ほぼ同じ傾向を示している。①が59.1%を占め、ストレートな表現が日常生活に定着していると思われる。生徒のコメントにも『「暗い」はよく聞くからこのままでいい。短くて、簡単な言葉を使えば伝わりやすい。はっきり言う方が分かりやすい。』とあった。

3. ①このスープは甘い。

②このスープは砂糖のようだ。

③どれも同じ。

各学年とも男女差はほとんど見られず、①のストレートな表現が69.8%と圧倒的に多い。ただし、1年生だけみると、①が57.3%、②が35.7%と、「甘い」という味覚をより具体的に比喩的表現で表した「砂糖のようだ」を選んだ割合が他の学年より高く、倍ぐらいの人数を占める。生徒のコメントを見ると、「たとえを使わないで率直に言った方が分かりやすくなることもある。」という一方、『「砂糖のようだ」と言った方がどの程度の甘さなのか分かる。』というものもあった。

4. ①このスープは辛い。

②このスープは唐辛子のようだ。

③このスープはひりひりする。

④どれも同じ。

①のストレートな表現を選んだ生徒は53.2%と過半数を占めた。また、②の比喩的表現は20.3%、③の擬態語を用いた表現は20.7%とほぼ同じだった。学年による差はほとんど見られないが、若干男女差が見られた。①のストレートな「辛い」を選んだ男子生徒は61.5%で、女子生徒の44.8%を大きく上回っている。それに対して、「唐辛子のようだ」や「ひりひりする」という具体的なより詳しい表現を選んだのは女子生徒が圧倒的に多い。特に「ひりひりする」という擬態語を選んだのは65.6%が女子生徒である。生徒のコメントに「分かりやすく伝えるには、はっきりとどのようなものなのか、どんな感じのものなのかを表現するとよい」とあった。

5. ①私はうれしい。

②私は心が弾んでいる。

③どれも同じ。

①の「うれしい」が44.8%，②の「心が弾んでいる」が43.8%とほぼ同じ割合である。1年，3年では①より②を選んだ生徒が多い。また，②を選んだのは男子より女子が多い。

6. ①私は悲しい。

②私は泣きたい気分だ。

③どれも同じ。

①の「悲しい」が39.2%，②の「泣きたい気分だ」が44.0%，③の「どれも同じ」が17.2%という結果になった。3学年とも②を選んだ女子が過半数を占め，1年，3年では①より②を選んだ生徒が多く，項目5と同じ傾向を示した。また，どの学年も③の「どれも同じ」を選んだ人数が他の項目と比べて多かった。

7. ①このパンはかたい。

②このパンは石のようだ。

③このパンはかちかちだ。

④どれも同じ。

①のストレートな表現は27.1%，②の比喩的表現が32.1%，③の擬態語を用いた表現が26.4%とほぼ同じ割合で分かれた。1年は②，2年は①，3年は②と③を選んだ割合が高い。また，どの学年も男女差はほとんど見られなかった。生徒のコメントには「具体的にそのものがどうかと伝えたいときには物にたとえると分かりやすい」や「たとえを用いると内容が感じ取りやすくなる」とあった。

8. ①このパンは柔らかい。

②このパンはスポンジのようだ。

③このパンはふわふわだ。

④どれも同じ。

①は25.3%，②は20.4%，③は44.7%と，どの学年も③が圧倒的に多く，あとは①と②に分かれる。1年と2年に男女差はほとんど見られないが，3年は男女差が顕著である。3年女子では③を選んだ割合が女子の60.8%を占めている。パンは見た目より触感で「ふわふわ」という表現が選ばれたのではないかとと思われる。

考察

1～8は，形容詞を用いたストレートな表現か，状況を具体的に説明した表現（比喩的表現や擬態語を用いた表現を含む）かを選択させる項目である。日常生活でよく使う「寒い」「暗い」「甘い」「辛い」は支持率が高かった。しかし，感情表現である「うれしい」や「悲しい」は「心が弾んでいる」や「泣きたい気分だ」とほぼ同じ割合で，男子がストレートな表現を好み，女子がより具体的な表現を好むという傾向が見られた。パンはもともとどちらかと言えば「柔らかい」というイメージがあり，「かたい」という表現の仕方は分かれたのではないかと。また，口の中に入れた触感が「ふわふわ」という表現がぴったりだと感じられたのではないかと予測される。

いろいろな表現から感じ取ろう（9～14の調査結果と考察）

端 名 秀 雄

9. ①私は泣いた。

②私は涙を流した。

③私は目頭が熱くなった。

④どれも同じ。

学年によってばらつきがあるものの、3学年全体でみると、①（1年 30.6% 2年 60.4% 3年 30.4% 平均 40.5%）②（1年 42.0% 2年 28.1% 3年 37.8% 平均 36.0%）と、ほぼ同程度の割合であった。

それに比べると、③は（1年 16.5% 2年 9.5% 3年 21.2%）と割合が低かった。情緒的な色合いが濃い表現のため、違和感があるのかもしれない。

10. ①私は笑った。

②私は顔がほころんだ。

③私はにこにこした。

④どれも同じ。

各学年ともに、①が最も多かった。（1年 46.5% 2年 59.3% 3年 60.4%）

慣用句的な表現、擬態語を用いた表現より、動詞を用いたストレートな表現が受け入れやすいようだ。

11. ①彼は音楽を聴いた。

②彼は音楽を耳にした。

③どれも同じ。

各学年ともに、①が圧倒的に多かった。（1年 68.8% 2年 87.3% 3年 84.1%）

ここでも慣用句的な表現より、動詞を用いたストレートな表現の方が受け入れやすいようだ。

12. ①彼はそっと近づいた。

②彼は静かに近づいた。

③どれも同じ。

各学年ともに、①が最も多かった。①（1年 52.2% 2年 61.1% 3年 63.6%）②（1年 26.1% 2年 19.1% 3年 13.9%）

形容動詞より、擬態語的な副詞を用いた表現が受け入れやすいようだが、③のどれも同じという割合も比較的高く（1年 21.6% 2年 19.1% 3年 22.5%）、なぜ①が多いのかという理由は特定しにくい。

13. ①星がきらきら輝く。

②星が光を放って輝く。

③どれも同じ。

各学年ともに、①が圧倒的に多かった。（1年 63.0% 2年 84.7% 3年 76.1%）

状況を具体的に説明する表現より、日常会話の中に定着している感のある「きらきら」という擬態語を用いた表現が受け入れやすいようだ。

14. ①父はがみがみ怒った。

②父は口うるさく怒った。

③どれも同じ。

各学年ともに、①②がほぼ同程度の割合であった。①（1年 36.9% 2年 42.6% 3年 44.4% 平均 41.3%）②（1年 37.5% 2年 36.3% 3年 35.1% 平均 36.3%）

前項13とはほぼ同じ条件であるが、①が多いものの②とはそれほど差がみられない。「がみがみ」という擬音語の定着度が「きらきら」ほどではなく今ひとつ（そのようにしかれたことがない？）ということなのかもしれない。

考察

9から14は、動詞を用いた表現か比喩的な表現（9・10・11）を、また、副詞（擬態語・擬声語を含む）を含む表現か状況を具体的に説明した表現（12・13・14）を選択させる項目である。

9から11に関しては、「涙を流す」「顔がほころぶ」「耳にする」という比喩的な表現よりも、「泣く」「笑う」「聴く」などの動詞を用いたストレートな表現を選んだ者が多かった。

基本語彙として日常会話の中に定着している動詞に関しては、それらを用いた方が伝わりやすいということが言えよう。

12から14に関しては、「静かに」「光を放って」「口うるさく」よりも、「そっと」「きらきら」「がみがみ」などの擬態・擬音的な副詞を用いた表現を選んだものが多かった。

擬態語・擬声語の多様さは日本語の特徴であるとも言われるが、それらを用いた表現がいかになじみのあるものになっているかということのあらわれであろう。

以上の6項目に関しては、前半の3項目が論理的な表現、後半の3項目が情緒的な表現の方が内容を感じ取れるというように、二分される結果となった。

生徒のコメント

基本的にはたとえを使わずにストレートに言った方がわかりやすいと思う。しかし、喜怒哀楽を表すものは比喩やたとえを使うとわかりやすいと思う。

普段使い慣れている言葉は特別言い換える必要は感じない。逆に言い換えると不自然な感じがする。

目で見えるもの（涙を流すや顔がほころぶなど）は、比喩などを使った表現の方がとらえやすかった。でも、目で見えなく形がないものは比喩よりもはっきりと一番簡単な表現の方がとらえやすかった。

事実だけを伝えたいときは直接書き表す。どのような様子だったかを伝えたいときは比喩を用いる。状況に応じて使い分ければよいと思う。

いろいろな表現から感じ取ろう（15～19の調査結果と考察）

清水 絵里奈

15. ①メロスは、つり上げられてゆく友の両足にかじりついた。

②メロスは、つり上げられてゆく友の両足にしがみついた。

③どれも同じ

①よりも②を選ぶ生徒がどの学年でも多く、その割合は1年 68.8% 2年 69.9% 3年 64.0%と、6割から7割近い数値となっている。生徒たちにとっては、直接的に動作を表現した②の「しがみつく」の方が、①の「かじりつく」という比喩的表現よりも、どんな様子であるかをイメージしやすいのかもしれない。

16. ①メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。

②メロスはつらく切ない思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。

③どれも同じ

1年と3年で男女ともに①の比喩的表現を選ぶ生徒が多く、特に3年での割合が高い。（1年男女48.4%に対して、3年は男女67.5%）一方、2年では男子で①より②を選ぶ者が少し多いのに対し、女子ではその逆で、①を選ぶ生徒が②を選ぶ生徒より少し多い。

17. ①帽子を脱ぐと、日の暑さが頭を燃やした。

②帽子を脱ぐと、日の暑さで頭が熱くなった。

③どれも同じ

どの学年でも①より②を選ぶ生徒が多いが、1年 52.8% 2年 43.6% 3年 58.9%という割合で、決して圧倒的な多さではない。これも比喩的な表現よりも、現象をそのまま表現する方がストレートでわかりやすいという判断がなされたためと推測される。

18. ①エジソンはすごい発明家だ。

②エジソンはすばらしい発明家だ。

③どれも同じ

若者のあいだで頻繁に使われる言葉の一つとして「すごい」があるが、そのまま形容詞として使われる場合もあれば「すごく」と活用させて副詞的用法がなされる場合もあり、あらゆる事物に対して程度が大きい様子、あるいは感情表現の一種として、さまざまな場面で会話や文章の中に多く用いられている。しかし今回の調査の場合、②の「すばらしい」を選んだ生徒がどの学年でも最も多かった。（1年 59.2% 2年 53.2% 3年 66.2%）①の「すごい」という表現を選んだ生徒は1年で13.4%、2年で14.1%、3年ではたったの6.6%と極めて少ない。また、注目すべきは③の「どれも同じ」を選択した割合が他のアンケート項目と比べると高く、1年 27.4% 2年 32.7% 3年 27.1%で、どれも30%前後である。具体的に表現した場合と大差なく感じられるほど、「すごい」という表現は相手に何かを伝えるときに内容が確実に伝わる表現であると認識しているのかもしれない。

19. ①散髪したら、微妙な髪型になった。

②散髪したら、ちょっと変な髪型になった。

③どれも同じ

①を選ぶ生徒がやや多く、1年 42.0% 2年 48.0% 3年 55.0%と、学年があがるにつれて「微妙」という若者で頻繁に使われる表現を選ぶ数が増えている。「どちらも同じ」の③を選んだ生徒は、1年 26.8% 2年 25.0% 3年 18.5% となり、少しずつではあるが、学年があがるにつれ減少傾向が見られた。また、1年では②および③を選ぶ数が女子より男子が多いのに対して、2年及び3年では女子の方が男子より多くなっていく。学年があがるにつれ、男子より女子が「微妙」という表現を日常的に多く用いているのかもしれない。

考察

15から17は、比喩的な表現か直接的な表現を、18と19は、最近特に若い世代で多く用いられている表現（「すごい」「微妙」）か、それに代わる別の表現を選択させる項目である。15から17では、15と17が直接的な表現が多く選ばれたのに対し、16では2年男子を除いて比喩的な表現が多く選ばれるという結果となった。生徒のコメントでは、「比喩表現を使うと、わかりやすく伝わる」という意見が多かった一方で、「感情や行動を小説等を書くときは、『かじりついた』、『胸の張り裂ける思い』と書くと、その人物の行動や心情がよりありありとわかる」、「文章や詩を書くときは、比喩表現をできるだけ用いるが、メールや普通に話したりするときは、比喩を使わずに言う」というものもあり、「比喩的な表現＝文学的表現＝文学的な文章の場合に使うもの」ととらえている生徒が少なくないことが推測される。生徒の日常的な表現の世界では、15から17に見られるような比喩的な表現はあまり身近でなじみ深いものではないのかもしれない。それ故、「比喩表現を用いると、相手によって受け取り方が異なるおそれがあるので、直接的な表現にした方がよい」といったコメントに見られるように、15から17の比喩的な表現で表さんとする内容がうまく掴めず、直接的な表現の方がわかりやすく感じる生徒が多いのかもしれない。

18と19では、「18では①の『すごい』を用いた場合、どれだけすごいのか、どのようなすごさなのか、とてあまい表現になってしまう。そこで②の『すばらしい』を用いることで、『すごい』よりも具体的に表すことができる。19も同じで、①より②の方が具体的に表している」という生徒のコメントからも分かるように、「すごい」や「微妙」は、相手に内容がよく伝わる表現ではない、という認識がなされているようだ。にもかかわらず、それらが日常的に生徒の会話や文章で多用されるのは、「（わかりやすく伝えるためには）よく耳にする表現を使う。例えば19の『微妙な』は、最近はどこでも使うので①を選ぶ」「『微妙な』のように、あいまいにしたい表現は、あいまいな表現を使う」というコメントにあるように、みんながよく使うからとか、他の表現がどうしても思い浮かばないのでその表現を使わざるをえない、という理由もあるのかもしれない。しかし、「すごい」や「微妙」のような、どんな状況でも使える便利な言葉にばかり依存しては、語彙力低下や表現力低下を招いてしまう。表現を駆使して伝えよう、という意欲や力が弱いことは、比喩的な表現の理解・創造力の低下にも繋がるのではないか。15から17の項目で直接的な表現が多く選ばれた理由が、ここにも関係しているように思われる。

「わかりやすい表現」の極致は、直接的な表現や画一的な表現ばかりに囲まれることではない。しかし、中学生の言語生活はそのような方向に進みつつあるのでは、という懸念が浮かびあがる調査結果となった。